

## 一 我聞是法音 疑網皆已除の事

仰せに云はく、法音とは南無妙法蓮華經なり、疑網とは最後品の無明を云ふなり。此の經を持ち奉れば悉く除くと説かれたり。此の文は舍利弗が三重の無明一時に俱尽する事を領解せるなり。今日本国の一切衆生法華經の法音を聞くと云へども未だ能く信ぜず。豈疑網皆已に除かんや。除かざれば入阿鼻獄は疑ひ無きなり。疑の字は元品の無明の事なり。此の疑ひを断ずるを信とは云ふなり。釈に云はく「無疑曰信」と云へり。身子は此の疑ひ無き故に華光仏と成れり。今日蓮等の類は題目の法音を信受する故に疑網更に無く、如我等無異とて釈尊と同等の仏にやすやすとならん事疑ひ無きなり。疑網と云ふは色心の二法に有る惑障の事なり。疑は心法にあり、網は色法に有り。此の經を信じ奉れば色心の二法の煩惱悉く除くと云ふ事なり。此の皆已の已の字は身子尊者、広開三顯一を指して已とは云ふなり。今は領解の文段なり。身子妙法実相の理を聴聞して心懐大歡喜せしなり。所詮舍利弗尊者程の智者法華經に来たて華光仏と成り、疑網を断除せり。何に況んや末法当時の権人謗法の人々、此の經に値はずんば成仏あらんや云云。